

平成21年度新規着工事業

# 安全・安心・活力の増大に向けて (港湾整備事業)

平成21年度予算の財務省原案において、徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の新規着工が認められました。



徳島県は今後30年以内の発生確率が50%程度といわれる南海地震発生時には大きな被害が想定されていることから、徳島県地域防災計画において、徳島小松島港は地震発生時の緊急物資や復旧資材等の海上輸送の拠点となる緊急輸送拠点港に位置づけられており、本施設は耐震強化岸壁として整備されます。これにより地震発生時には、関東・近畿・九州方面からの緊急物資の受入れが可能となります。

また、フェリー利用企業においては貨物の増加計画があることや、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトが進展していることなどから、貨物は今後も増加すると見込まれるため、より多くの貨物が輸送可能な大型船舶の就航が予定されています。

以上のことから、沖洲(外)地区に、大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送並びに船舶の大型化に対応した複合一貫輸送ターミナルを整備する事業を新規に着手します。

平成21年度は、調査・設計等を予定しており、関係者のご理解・ご協力のもと、事業効果の早期発現に向けて円滑な事業実施に努めてまいります。

## 事業概要

- 整備施設
  - 岸壁(水深8.5m)(耐震)
  - 泊地(水深8.5m)
  - 航路・泊地(水深8.5m)
  - 防波堤
  - ふ頭用地
- 事業期間
  - 平成21年度～平成26年度
- 事業費(計画)
  - 127億円(港湾整備事業費 118億円)

## 期待される整備効果

徳島小松島港沖洲(外)地区  
複合一貫輸送ターミナル整備事業の実施

- 大規模地震発生時における緊急物資等の海上輸送を確保
- 船舶の大型化により、輸送が効率化